

私は、今回のこの東京研修で、多くのことを学び、大人への一步を踏み出すことができた。そう思えるのには自分が実際に経験してきた確かな根拠がある。

第一にディレクトフォースである。ディレクトフォースでは、新日鉄住金の元役員団体の方々や、仙台第二高等学校出身の現役社員の方々から、今後に生かしていけるようなお話をたくさん聞くことができた。例えば、日本人は以心伝心という言葉があるように、なにも言わなくても言いたいことが通じるといことがよくあり、お互いに気持ちを察し合いながら、少し受け身になりがちであるが、外国人からすると、なにも話さない日本人はなにを考えているか分からず、気持ちを察してはくれないのだ。だから、今回、国際系の職業に就きたい人で構成された自分たちにとって、積極的、主体的にコミュニケーションを取る大切さを学ぶことができた。

また、会社で法務担当の方の話によると、外国人との交渉の際には、相手国の英語の文章を理解し、その法律を知る必要があるということで、国際系のグループとして、為になる話だと思った。その他にも、外国人の英語を十分に理解できていないのにも関わらず、「yes」と答えると、外国人からしたら、理解したと思われるので、少しでも分からない時、「no」で答えることで、詳しく説明してくれる、という実践的なことまで教わることができた。また、外国人に限らず常にアイコンタクトを意識して、話をするものの大切さを教えていただき、再確認することができた。そして、何よりも新日鉄住金の社員の皆さんは誰もがいきいきとしていて、普通の人がゆっくり話すことができないような方々でありながら、今回貴重な話が聞けてとても良かったと思う。

第二に、企業大学訪問である。企業大学訪問では、中国大使館に行った。最初は、大使館といえば、とても厳重な警備で、施設内も撮影禁止だと、思い込んでいたが通訳の中国人の女性に笑顔で迎えてもらったこともあり、とても親しみやすい雰囲気でお話を聞くことができて良かったと思う。通訳の方はとても日本語が上手で日本の文化を学ぶといった、国際交流の上で大切な現地の事についても自国の事についても詳しく知ることがとても参考になった。また、大使館の敷地内には、プールや、テニスコート、映画のスクリーンなどの施設が存在していたことが、とても意外であり、大使館の職業が自分の勝手な厳重なイメージとは違った雰囲気であると感じた。施設内には、日中間の友好の証の木があったり、毎年交流があったりと、国際上で、協力している両国が、国民からしたら、お互いに悪い印象を持っているということが間違っているということに気付いた。新聞や、テレビなどの情報源を参考にして、自分で、判断するメディアリテラシーの大切さを改めて感じる経験にもなった。

第三に東京大学のオープンキャンパスである。東京大学のオープンキャンパスでは、文系の学部説明と経済学部の模擬講義を受けてきた。赤門にたどり着くと、とても貫禄があり、校舎はとても古く伝統を感じた。そんな東京大学を実際に体験することができてとてもいい経験になった。自分は、法学部と経済学部で迷っていたが、学部説明を聞くと、すべての学部の良さを知ることができたし、自分の中での理解も深めることができた。法学部での説明で、狭き門と言われている司法試験の合格が、8割近くあり、そこにはとても驚いた。法律の世界で働くならば、東京大学を本気で目指すことになるかもしれないという、一つの可能性を感じることもできた。しかも、それが一年生の夏ということで、まだまだ目指すことができるのではないかと自信にもつながった。そして、実際に経済学部のマクドナルドと、モスバーガーの比較という模擬講義を受けてみて、とても興味深かった。二つの企業を比べても全然戦略が異なるのだ。モスバーガーは野菜などの素材の産地にこだわり、商品の値段を高くして、利益を大きくする戦略で、マクドナルドは原価の安い素材に、少しの利益を設けて、たくさん売るとい戦略である。それだけでなく、資本金に占める借金の割合などから、倒産しやすい企業を数字的に割り出すというような内容の講義であり、多岐にわたる経済学の学問があるということを知ることができた。

自分の想像していた経済学部よりも、もっと広く様々な領域を取り扱っていてとても興味を持った。そして、キャンパス内を散策していると、大きな池があり、その周辺の静かな雰囲気をとても気に入った。そんな池の周

りのベンチで本でも読めたらいいと少し思った。部活をしている姿も外から見学していたが、とても広い施設で運動をできていて、とても学生たちは大学生活を満喫することができると思い、とても良い大学だと感じた。この時期に体験できて本当に良かったと思う。

第四に、二高生の OB、OG による懇談会である。自分たちと同じ環境であるこの仙台二高で生活してきた先輩方が、有名な大学に入学できているという事実がとても説得力があり、努力次第では自分もそういった大学に入学できるのではないかと思えることができた。そんな偉大である先輩方の話では、自分も最初から勉強がとてできて、順位が常に上の方だったのではなく、自分自身を、律することでいかに誘惑を排除し、自分の時間を確保しているかというところに合格の勝因があると思った。そこで、今現在の自分はあらゆる誘惑を断ち切って、自分の時間を確保することができるだろうか。そう考えると確実にできていないと思う。まず部活で疲れて帰ってくると、その日はだらだらとテレビを見て過ごしてしまっているし、少しでも暇があるとスマートフォンを夜遅くまでいじってしまって、寝るのが遅くなってしまっているのもっと、自由な時間を増やすために、生活の無駄を省き、十分な睡眠時間を確保していくことで、規則正しい生活を行い、勉強もしっかり行いたいと思った。また、今まで自分の概念に東京の大学がなく、東北大学に行ければいいなと思っていたが、OB の中には一橋大学や東京大学など、たくさんの文系大学が存在していて、最高目標が東北大学から東京大学になったことで、東京大学を目指して勉強に熱心に取り組みたいと思った。しかし、勉強だけでなく、仙台二高の校風である、文武一道を念頭に置いて、部活にも同じように熱心に取り組みたいと思った。以上の四つの経験は、必ず将来に役立つことであり、この経験は減多にすることができないので、これで終わらず、実際に行動に移すことで意味のあるものにしたいと思う。また、今回の東京研修で学んだことはそういった、将来の仕事関係についてや、大学や高校の勉強などだけではなく、他にも大事なことを学ぶことができた。それは、コミュニケーションである。今回は様々な場面で初対面の人、元から知り合いだった人とコミュニケーションをとる時間があった。ディレクトフォースや中国大使館のグループの班員や、東京大学のオープンキャンパスで一緒に回った人、新日鉄住金の社員や仙台二高の OB、OG の方々などである。そういったコミュニケーションは今現在の高校生活でも、将来の職場でも様々な場面で役立つので、とてもいい経験になった。これらのことを普段の生活に生かしていけるように、常に念頭において行動したい。